

■2004年11月14日(日)・11月20日(土)■



県土の70%以上を占めている森林。

森林は、木材を供給するだけでなく、大気や水を浄化し土砂災害を防止するなど、私たちの暮らしを支える大切な役割があります。

木材の価格の低迷や需要の減少などで、林業を取り巻く経営環境は大変厳しい状況にあります。

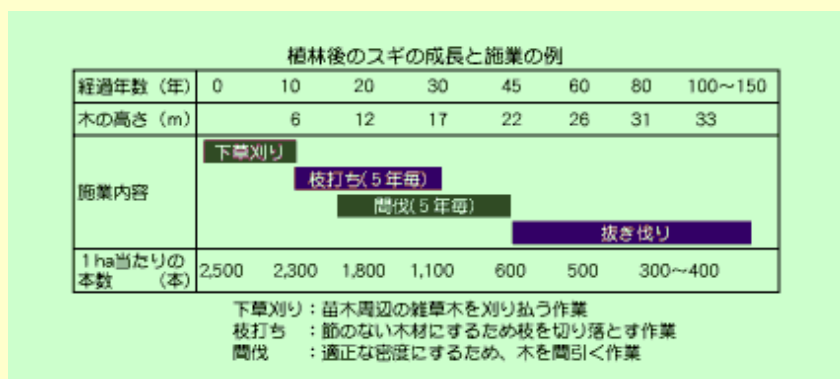
県では、今年度から林業をビジネスとして活性化させるため、意欲のある林業者に対する支援を開始しています。

良い木を育てるために

人が苗木を植えて育成しているスギやヒノキなどの人工林は、枝打ちや間伐などの手入れをすることで優良な木が育ちます。この人工林は本県の森林面積の約4割(約12万ヘクタール)を占めています。

手入れが行き届いた人工林では、日当たりや風通しが良くなり、木はまっすぐ太く育ち、木材としての価値も上がります。

県では、間伐材を有効に活用するための認証制度を設け公共工事での利用促進を図るとともに、間伐などに要する費用を助成することで、森林の適正管理を支援しています。



県産材を利用するために

人工林のスギは、約45年ぐらいで利用できるようになります。その後、順次需要に応じて木を間引いて市場に出荷する「抜き伐り」を行いながら、市場価値が高い樹齢100年以上の木を育てていきます。

しかし、1. 搬出するための林道や作業路がない 2. 木材価格が低迷し採算が合わないなどの理由で抜き伐りを実施していない例が多くあります。

こうした課題を解決するため、県では、今年度から、抜き伐りに意欲のある森林所有者のグループ化と、低コストで伐採・搬出を受託する事業者のグループ化を支援することとしました。これら2つのグループを結び付けることで森林から市場への木材の安定的な供給を図る「森のビジネスの活性化」に着手しています。

期待される効果

- ・作業路を活用した林業機械での搬出による低コスト化
- ・出荷量の確保による価格の安定
- ・地域全体での取り組みによる森林整備の促進

森林所有者のグループ化



伐採計画を立てるため森林資源調査を行う池田町下池田グループの皆さん(7月)

小規模な流域単位で意欲的な森林所有者のグループ化を行い、効率的な伐採活動を推進します。

2年間で12グループを育成する計画で、今年度は、あわら市、池田町など3市3町で6グループが結成されました。

グループ化に取り組む皆さんから

いくら立派な木が育っていても、個別に出荷したのでは採算が見込めず、なかなか出荷に踏み切れない状況でした。複数の所有者が協力して出荷すれば、コストが抑えられ、採算が取れるのでないかと期待しています。将来的には、森林の管理の集約化にも挑戦したいと思っています。

グループへの支援内容

- ・抜き伐り研修による普及啓発、リーダー育成
- ・抜き伐り対象となる森林の事前調査
- ・指導林業士によるグループ育成活動支援 など

伐採・搬出する事業者などのグループ化(森づくり隊の結成)

木材の伐採・搬出を行う事業者や森林組合をグループ化し4ブロックで森づくり隊を結成しました。森づくり隊の皆さんは、「安価、安全、安心の3つのAを守って、森のビジネスの活性化に努め、健全な森林整備に貢献していきたい」と、意欲を燃やしています。

今後は、作業路を活用した機械化システムを導入し、低コストでの搬出を推進していきます。



機械による作業路の整備を行います(池田町 7月)



高性能の機械による効率的な抜き伐り作業を行います(勝山市 10月)

森づくり隊への支援内容

- ・技術研修などによる人材育成
- ・作業路の開設経費
- ・高性能の機械の整備費用

新しい森のビジネスが始まります

各地域では、小規模な範囲で、森づくり隊による作業路の整備や抜き伐りのデモンストレーションを行っています。

専門家のアドバイスを受けながら、本格的な抜き伐り計画の策定も始まっています。

間もなく、新しい方式による森のビジネスが本格的に始動します。

県では、森のビジネスの活性化により県産材の市場への流通量の拡大を図るとともに、住宅・公共施設での利用促進などによる消費拡大に取り組んでいます。

冬の厳しい自然環境を克服し年輪を重ねた本県産の木材は、強くて狂いが少ないという長所を備えています。県民の皆さんが、地元の木を愛し、その良さを理解し、積極的に活用していくことが必要です。

詳しい内容は、県のホームページに掲載されていますので、ご覧ください。

(URL <http://info.pref.fukui.jp/mori/>)

この記事に関するお問い合わせは、**県森づくり課0776(20)0444**までどうぞ。

 **BACK**